

興望館略年史

			創設の時代						定着の時代										戦争の時代					再建へ							
			大8	大9	大10	大11	大12	大13	大14	大15 昭元	昭2	昭3	昭4	昭5	昭6	昭7	昭8	昭9	昭10	昭11	昭12	昭13	昭14	昭15	昭16	昭17	昭18	昭19	昭20	昭21	～
			1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	～
組織		T8.1～現在	矯風会外人部会委員会の活動						カナダメソジスト宣教社団に所属						財団日本基督教婦人矯風会に所属																
									矯風会向島支部を発会						社会事業法による届け出					財団法人設立											
建物	松倉町	T8.10～S4.3	●																												
			3月暴風雨で倒壊、9月関東大震災で焼失																												
	寺島町／京島	S4.4～現在							9月本館竣工						隣地購入、保育園増改築					拡張等	保育園拡張										
	軽井沢沓掛	S15.5～現在													常設転住施設開設					疎開の家として冬期設備											
児童福祉事業	保育園	T9夏～S20.3／ S21.6～現在																		●											
	富ヶ丘疎開保育所	S20.5～S21.3																		●											
	沓掛学荘疎開の家	S19.3～終戦																		●											
	戦災児・孤児・引き上げ児の収容	終戦～S23.1																		●											
地域活動	転住生活訓練・幼児学童転住指導・キャンプ	T13～S18／ S23～現在	津田沼 稲毛 一宮学園						調布上石原 御殿場富士岡荘						沓掛学荘																
	学齢児余暇指導 (のち学童クラブ)	S3～S15 S23～現在							少年少女クラブ						会員120名																
	児童図書館	S8～S19													●																
	児童遊園地・遊戯運動場開放	S7～S19													図書400冊、雑誌150冊、閲覧：午後2～6時																

セツルメントとは

セツルメントとは、社会事業家が労働者居住区に定住し、住民との人格的なかわりを持って、物質的、精神的な困窮に対応すると共に、住民が本来もつ力を引き出して生活向上を図っていく社会事業の手法です。労働者居住地区における貧困状況に対応する有効な社会事業形態として、英国や米国において発達したセツルメントが日本に紹介され、大正中期から昭和初期にかけて、東京、大阪、神戸等の都市の下町に次々と誕生しました。

当時の墨田区には、興望館セツルメントをはじめ、東京帝国大学セツルメントや共励館など10を超えるセツルメントがあり、児童を対象とする保育や学童クラブ、キャンプ、青年への余暇指導や夜学、失業者や困窮者を対象とする職業紹介や授産、生活相談、診療等の事業が行われていました。

特別展示に関する注意事項

- 特別展示資料は「社会福祉法人 興望館」歴史資料室から借用した資料となります。
- 参考文献：興望館セツルメント75年の歴史（興望館創立7周年記念誌編集委員会／編、1995）
希望への扉－興望館100周年記念誌－（100周年記念誌編集委員会／編集、2019）
興望館セツルメントと吉見静江－その実践活動と時代背景－（瀬川 和雄／編著、2000）
- 参考ホームページ：社会福祉法人 興望館（<http://www.kobokan.jp/>）